

AKOME

阿古女通信

2017, 11, 17 No. 205

福岡市手をつなぐ育成会
指定障がい福祉サービス事業所

ひまわり園

TEL (092) 882-0432

FAX (092) 885-3860

T819-0006

福岡市西区姪浜駅南四丁目十番十三号

Email en@fiku.jp

発行責任者 花田 敏秀



「最近あれこれと思うこと」

ひまわり園長 花田敏秀

栗がおいしい季節となりました。栗には思い出があります。それは私が小学生だったころ運動会といえれば必ずと言ってよいほど母が「栗おこわ」のお弁当を作ってくれました。お弁当は必ずしも秋ではなく春に行われるところも多くなっていました。それにつれてお弁当も季節の色がなくなりました。今年も姉の嫁ぎ先から栗が送ってきました。そこで妻と二人でゆでた栗の皮むきを三々四時間かけてしました。栗の渋皮を剥くのはこれが意外と大変で、ぶつぶつ二人で言いながら、栗と赤飯の味を思い浮かべながら、一つずつ丁寧に剥いていきます。栗と小豆もち米で炊きあがった「栗おこわ」を頂きながら、毎年こんな苦労をして母が作ってくれていたのかと今更ながら思います。その母も亡くなって四年が経ちました。

若いころは何とも思っていなかったのですが、仕事や言葉遣い、おかしなものの一つ一つ、のどかしく感じるこの頃です。命のつながりを思い、こうして生かされているのは実は奇跡に近く、本当は生きていてだけでありたいことなのだと思えます。

最近の流行語に「忖度」があります。「忖度」とは相手の胸中を推し量るという意味ですが、日本的な感性で「空気を読む」という場の雰囲気を感じる」ということでもあると思います。これとできないと気が利かないことになりません。私のかつての上司の口癖が「定観測(もと)もとは気象情報を得るため同じ場所を観測することですが、この場合はフットワークの悪い腰の重い人の意味」をするな「走りながら考える」でした。現場に足を運べ、机上の理論ばかりではなく現場実践が大事ということだと思えます。その意味や趣旨は良くわかりませんが、むしろ当然のこと、今では私も職員によく同じようなことを言います。しかし、社会保障や社会福祉、そして障がい者福祉がどこに向かっているのか混沌としている現在の時代背景を考えたとき、自分の意見ははっきりと言わず、ヒラメのような目で世の中を眺め、世の中に迎合して、忖度してその動きを追うばかりではなく、時として「定観測」

して同じ場所、同じ視点で見ると見えてくるものがあるのではないかと最近思うようになりました。

早良ひまわりハウスが4月に開所しました。基幹相談支援センターと短期入所も併せ持った育成会念願の地域拠点型グループホームです。ひまわり園からもたくさんの方々が入居しました。保護者の方は初めて子どもが親元を離れて暮らすことに不安を感じ、子どもは仲間との暮らしをそれぞれが楽しんでるように見受けられます。「案ずるより産むが易い」とも申します。このホームがいろいろな課題をクリアしながら真に地域生活の拠点としての役割の一端を担ってくれることと念じています。今後ともひまわり園ともども暖かく見守り支援していただきますようお願いいたします。

とりとめの文章になつてしまいました。ひまわり園への変わらぬご支援ご協力をお願いしまして挨拶いたします。



第23回 阿古女祭



10月22日(日)ひまわり園にて第23回 阿古女祭が開催されました。今年は大型の台風が近づきつつある中で、前日準備からどうなることかと思われましたが無事開催することができました。当日は時間短縮など急な変更もありましたが、多くのお客様の来園があり盛況のうちに終わることができました。また多くのボランティアの方の参加もあり「ひまわり園」を中心にたくさんの人と人の関わりができたことを嬉しく思います。

<ステージ>

スタートは利用者みなさんのエアロビクスのダンス。その後、姪浜駅南4丁目の地域の方のアコーディオン演奏、内浜中学校の吹奏楽と続きました。創作和太鼓の迫力ある演奏もあり、午後は西陵高校ダンス部の発表、「お楽しみ抽選会」と盛りだくさんのステージとなりました。「お楽しみ抽選会」では協賛でいただいた豪華賞品に加え、ひまわり園の製菓品や自主製品の詰め合わせなどの賞品も加わり、皆さん大喜びされていました。



<販売ブース>

ひまわり園のパン・製菓・自主製品以外にもカフェサンフラワーのカレーや「おやじの会」の焼きそば、地域の方のポップコーン・綿菓子やジュースなどの販売がありました。子供たちのお楽しみ「ゲームコーナー」では射的やレンゲすくい、ビンゴなどで景品が当たり、歓声があがっていました。他施設の販売は6施設の参加となり、どのブースもお客様で賑わっていました。

ご協力いただいた地域の方々、ボランティアの方々、関係各所の皆様ありがとうございました。



■寄付・寄贈

ひまわり園
保護者会 様

■編集後記

今年度最後の「阿古女通信」ができあがりました。今年二回、五月の発行から半年が経ちます。今回発行する阿古女通信もひまわり園の日々の取り組みから、毎年恒例行事や今年から利用者さんに選択して実施された催し等盛りだくさんの内容をお届けします。

ひまわり園の二大行事である「感謝デー」は三月に行われます。ひまわり園の手作り商品を含めお買い得な商品や各クラスの作業体験等、ひまわり園をもっと知って頂ける機会となるような催しとなっております。

皆様のご来園お待ちしております。



日々の活動



「生活介護の活動について」

今年度より月に1回、3グループに分かれて、外活動を実施しております。行き先は今津運動公園、生松台中央公園、マリナタウン海浜公園、愛宕神社、買い出し(サンカクヤ、ダイソー)等、近隣施設へ車両を使った活動が主となっております。利用者の方も楽しみにされており、今後も継続して実施していきたいと考えております。また、これからの季節はウォーキング等の体をより動かす活動を提供していけたらと思います。

生産活動では各班、新製品を制作しております。陶芸班では某動物園(正式に決定しましたら、報告します☆)から注文を受けている「あざらしの箸置き」を制作しております。こちらの製品は石膏型を使ったもので、多くの利用者に携わって頂ける製品になりますので、継続した受注につながればと日々、完成度を高めております。そして、手芸班と木工班のコラボ製品として、「マグネット製品」を制作しております。木製の枠に刺繍でマスコットをあしらった可愛い製品となっております。どちらの作品も安価で販売を予定しておりますので、老若男女の方々に興味を持って頂けたらと思います。

「本人の声を聴く会」

7月23日(日)に平成29年度の本人の声を聴く会が開催され、ひまわり園から発表者1名と準備委員1名が参加しました。本人の声を聴く会は準備から進行まで全て利用者が行います。発表者、準備委員ともに当日は緊張した様子でしたがしっかりやり遂げられ、会の終了後は達成感に満ち溢れた笑顔を見せてくれました。他事業所の利用者との交流の場にもなりました。このような機会がもっと提供できたらいいと感じました。

「就労の活動について」

現在就労班での活動は利用者の個別支援計画書を元に、製造で使用する材料の買い物をしたり、特別支援学校への販売に同行し販売体験をしたり、お金を扱う機会や販売・納品を通して施設外の方々とコミュニケーションをとる活動を取り入れています。

買い物を体験した利用者は、「牛乳の賞味期限は〇月〇日だから、これを先に使わないといけないね。」等賞味期限を意識する姿や販売を体験した利用者は「全部売れましたよ!」と沢山売れたことを嬉しそうに話す姿が見られます。

自分達が製造した商品がどのような場所に納品・販売しているか等知り、体験する事で、「働く」ということへの意識が変化してきているように感じます。これからも様々な活動を取り入れながら、多くの事を体験できる場を増やしていきたいと思っています。



バスハイク

6月2日(金)、福祉バス2台でバスハイクへ行きました。

目的地は・・海ノ中道海浜公園! 時節柄、雨も心配されていましたが、皆さんの思いが届き快晴! 日差しも強く汗ばむ陽気となりました。

園内はともかく、「フラワーミュージアム」、「ふれあい動物の森」等、とても一日では遊び尽くせません。パンフレットを片手に各班目的地を目指します。

1番人気は、「ふれあい動物の森」! ここでは、モルモットやウサギのような身近な動物からリスザル、カンガルー等珍しい動物まで柵の中に入り間近で触れ合うことができました。間近で見える動物たちの可愛らしさにみなさん大興奮! 「この動物、テレビで見たことある!」、「かわいいね。」との会話が行き交っていました。

また6月の催しは「バラミュージアム」。色とりどりの花を前に、笑顔いっぱい記念撮影をしました!

日差しが強い中の移動で疲れもあったかと思いますが、肩を組み歌いながら歩かれる姿や、顔を見合わせ笑い合われる姿に私達もとても嬉しい気持ちになりました。帰りの車内では、「楽しかったね。」「今度はお母さんと来よう!」との声も。

今後とも皆さんが楽しめる行事を企画していきたいと考えておりますので、行先のおすすめや要望がありましたら、ぜひお知らせください!

また、尾造会長につきましては、福祉バスの手続き等ご尽力いただき、ありがとうございました。



ふれあい旅行

9月7日・8日、年に一度の「ふれあい旅行」で、門司港・山口方面に利用者さんと職員67名で1泊2日の旅行に行ってきました。

今年度は利用者さんのニーズの変化に伴い、例年通りの1泊2日プランと日帰りプランを計画し選択して頂きました。ここでは1泊2日プランのお話をします。

1日目は生憎の土砂降りでしたが、バスで目的地周辺に着くと雨脚が弱くなり、門司港駅に併設された乗り場からめり駅まで、珍しいトロツコ列車に乗って景色を見ながら移動。昼食はプリプリの鯛のお刺身やフグの唐揚げを堪能し、山口県の道の駅でお土産を買って、絶景の西長門リゾートホテルへ。温泉でも最高の景色を眺めることができ皆さん感動してありました。旅行では、豪華な夕食を食べながら、各班の出し物で大盛り上がりでした。



2日目は前日の雨が嘘のような快晴で、車のコマーシャルで有名な角島大橋とコバルトブルーの海を背景に記念撮影。2日目の目玉であるサファリランドへ。

ランド内はバスで移動することができ、ライオンやキリン、ホワイトタイガーなど、様々な動物を見て大興奮! 昼食は初めての試みで室内バーベキューを体験。おいしいお肉とお野菜を自分で焼きながら堪能しました。

今回の旅行では、変化するニーズに沿って費用や交通手段を見直す事から始まりました。一つのプランを立てる事で通院や体調面などでの負担が軽減な方も参加しやすい選択肢が広がりました。しかし、まだまだ課題は山積みです。今後も皆さんに楽しんで参加して頂ける企画を実施していきたいと思っております。ぜひご意見などお聞かせ下さい。

日帰り旅行



今年からふれあい旅行(一泊旅行)以外にも日帰り旅行という新たなイベントを開始しました。日帰り旅行に参加されない方も楽しんでもらえるように、1日目の午前中は映画観賞、午後からはカラオケ・レクリエーションに分かれて過ごされていきました。

2日目は日帰り旅行に呼びかけ! 七ツ釜遊覧船イカ丸に乗船しています。洞窟の奥まで船は入ることができませんでしたが、船長さんに洞窟内の状況を説明してもらったことで、洞窟まで入った気分を味わうことができました。その後は呼び子ならではのイカづくし料理を食べ、家族や友達にお土産を購入して満足した様子でした。

また来年も日帰り旅行に参加したいという方が多く、来年度もみなさんが楽しめるような計画を立てていきます!!

